

平成29度 学校評価報告書

神戸市立本多間中学校
校長：古賀英貴

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の自立に向けた力を伸ばす	・きめ細やかな指導、個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「学ぶ力・生きる力向上支援員」の活用については、授業中・放課後ともに一定の成果が上がっている。日常的に別室登校生徒にも関わってもらい、そのおかげで行事等にも参加できている。放課後学習(ボン太モン教室)では、支援員さん自ら生徒に働きかけを行い、学習面以外のサポートもあり、効果的であった。担任との一層の連携が課題である。 「みんなの学習クラブ」の家庭配信3年目。より個に応じた指導の充実に努めた。一方でマンネリ化もある。さらに有効的にするためには教員の組織的な働きかけが必要である。 夏休みの課題に「みんなの学習クラブ」を一部取り入れた。学年や教科の特質もあり、すべて「みんなの学習クラブ」というわけにはいかない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「学ぶ力・生きる力向上支援員」の活用については、授業中・放課後ともに一定の成果が上がっている。日常的に別室登校生徒にも関わってもらい、そのおかげで行事等にも参加できている。放課後学習(ボン太モン教室)では、支援員さん自ら生徒に働きかけを行い、学習面以外のサポートもあり、効果的であった。担任との一層の連携の具現化を検討する。 「みんなの学習クラブ」の家庭配信や学校での効果的な活用について、学習指導部を中心として、職員の共通理解を一層図る。夏休みの課題に「みんなの学習クラブ」をどの程度取り入れるかも検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領で言われている「主体的対話的な深い学び」は今後の社会で求められるものである。一方で高校入試があり、入試問題が暗記中心だとすると学校の授業はどのような形がいいか難しいのではないかと。 学ぶ目的は進学だけではなく、人生を豊かにするもので、人間性が豊かになるよう学びがあるべき。人間性が豊かになれば、人間関係の問題も減ると思う。もちろん知識を増やす努力も大切。 授業時間の様子を生徒から聞くと、確かな学力の育成とわかる授業の推進は程遠いのが現状ではないかと。 放課後の学習で「図書館」を開放した取り組みはとてもよいと思う。
	・確かな学力の育成と分かる授業推進	<ul style="list-style-type: none"> 「ボン太モン教室」については長期休業中を含め、火水木週3日開催した。利用生徒が減少している。授業との連動や担任の指導との結びつきなど改善する必要がある。 授業評価アンケートを実施し、分かる授業に向けて各教科担任が生徒の視点を中心に改善に取り組んだ。全体的には昨年度より数字が改善されているが、個々には課題が残っている。 各教室でプロジェクターを利用し、動画やデジタル教科書を活用する授業が増えてきた。有効活用について検証し、すそ野を広げたい。 校内授業研究を実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「ボン太モン教室」については長期休業中を含め、火水木週3日開催した。利用生徒が減少している。授業との連動や担任の指導との結びつきなど検討する。 授業評価アンケートを実施し、分かる授業に向けて各教科担任が生徒の視点を中心に改善に取り組む。 各教室でプロジェクターを利用し、動画やデジタル教科書の有効活用について検証し、すそ野を広げる。 校内授業研究をさらに充実させる。 新学習指導要領に基づいた授業の在り方について、校内での研修を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ボン太モン教室」の利用者が減ってきているのは、それぞれの家庭でインターネットがあることもその理由だと思う。 放課後や夏休みに先生たちが補充学習をしてくれるのはありがたいが、部活動やその他忙しいと思う。先生が忙しいことが言われているが、先生たちにもゆとり休みしてほしい。
	・楽しい学校づくり いじめのない学校	<ul style="list-style-type: none"> 「コミュニケーション能力養成講座」を実施し学級・学年・学校全体の親睦を図った。 各行事にできるだけ生徒の主体的な活動を取り入れ、達成感や充実感を得ることができるよう工夫した。リーダーが声を出す場面が増え、集団としてしっかり成長している。もっと前面に出す必要がある。 教育相談やアンケートを通じて、生徒の実態の把握に努め、特にいじめやラインの問題について力をいれた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の力を引き出すという視点から各行事にできるだけ生徒の主体的な活動を取り入れ、達成感や充実感を得ることができるようさらに工夫する。 教育相談やアンケートを通じて、生徒の実態の把握に努め、特にいじめやラインの問題について力をいれる。 日常的に生徒や保護者が教職員に相談しやすい雰囲気づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校でやっている放課後学習と中学校の放課後学習が将来つながればよい。 本多間中学校の生徒が急増する。仮設校舎の計画など住民にも早く知らせてほしい。 スマホは小学生から指導しないとダメ。親の問題でもある。 いじめの指導で周辺の生徒から事情を聞く時間帯やタイミングにも十分配慮してほしい。

実教職員を磨き学校の魅力と高める	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の充実 教員の指導力向上 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議を利用したミニ研修を定期的実施。特別な配慮を要する生徒理解の研修、小中合同研修などを長期休業中などに実施した。 P T A組織の活用、特に学年委員会や運営委員会での意見を、教員にフィードバックすることで指導力向上に取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議を利用したミニ研修を定期的実施する。特に新学習指導要領への対応や今日的な教育課題についての研修を取り入れる。 P T A組織の活用、特に学年委員会や運営委員会での意見を、教員にフィードバックすることで指導力向上に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生にゆとりがないと子供にいい影響を与えない。昔と比べて、先生の何が忙しくなったのか？ PDCAのチェックとアクションがもっとわかりやすく見えてくると、プラン、ドウが確実に実行できる。そのためにも学校アンケートの目的を具体的に表わしてほしい。 先生の言動の中に生徒の心を傷つけることがあると聞いた。指導力の向上どころか、教員としての資質が問われることだと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> 評価活動に基づくPDCAの確立 	<ul style="list-style-type: none"> 各評価アンケートを実施。7月の授業評価、授業公開時の保護者アンケート、12月の全体的な学校評価等を教職員が共有し、次に生かす工夫をしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価や授業公開時における保護者アンケート等積極的に活用する。 教職員の教育活動に対するPDCAサイクルを一層進める。 	
特色ある神戸の教育を更に発展させる	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係力、コミュニケーション能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 吉本芸人の「かりんとう」に学期に一回来てもらい、人間関係力・コミュニケーション能力の向上に努めた。また、「プレ親学習」では、地域に住む母親に来ていただいたり、校区内の保育所と積極的に交流を持ったりした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 吉本芸人の「かりんとう」に年に一回来てもらい、人間関係力・コミュニケーション能力の向上に努める。また、「プレ親学習」では、地域に住む母親に来ていただいたり、校区内の保育所と積極的に交流を持つことを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> プレ親はよい試みだと思う。 図書館の利用が増えていないのはどうしてでしょうか？ テスト前に図書館を自習室として開放したのは、評価できる。 吉本芸人を呼んで、コミュニケーション能力の向上を図ったことは評価できる。 コミュニケーション能力講座は年間3回もいらぬのではないか。他の講座も考えてみては。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書が配置され、原則毎日開館している。昼休みを中心に来館者数、貸出数ともに増加。道徳との授業に合わせ、特設コーナーを設置したり、公設図書館から本を取り寄せたりしている。来館者層の拡大と授業での活用が課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間も含め、できるだけ開館時間帯を維持する。朝の読書とリンクさせ来館者層の拡大と授業での活用を図る。 	
市民が自ら学び子供の育ちを共に支える	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> HPやメール（ミマモルメ）の活用が家庭とのタイムリーな情報伝達の中心手段として定着した。 地域行事における中学生の積極的な参加・活躍をしている。一方で活動時間が長時間となり、時間的な見直しを検討したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> HPやミマモルメをより一層活用し、情報発信したい。 地域行事の中学生の参加はできるだけボランティア募集方式を取り入れたい。また、活動時間帯については中学生の過度の負担にならないよう地域とも調整したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ミマモルメは部活動でも使ってほしい。 PTAの声を学校がきちんと受け止めてほしい。 PTAを含め、地域の関わりをもっと深めていく方を再構築し直すべき。学校応援団の今後も再考が必要。 病欠欠席の生徒宅に教員が家庭訪問するなど家庭との連携強化は評価できる。
	<ul style="list-style-type: none"> P T A活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度の運営委員会が実質的なP T A学級委員総会となり、多くの提案や討議がなされ、具体的な形で学校運営に反映することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の意見に真摯に耳を傾け、共に生徒のために協力し合う態勢を維持する。 	